様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３４３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７００６３

研究課題名（和文）インド・チベットにおける般若学の研究

研究課題名（英文）A Study of Prajnyaa-paaramitaa-subject in India and Tibet

研究代表者
白館　戒雲（SHIRATATE, Kaiun）

大谷大学・文学部・名誉教授

研究者番号：１０１７９０６２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：インドからチベットで隆盛した「般若学」（顕教学問寺の５大学科の一つ）の文献、マイトレーヤ著『現観荘厳論』、主要註釈書ハリバドラ著『註釈・明義』を、チベットで最重要なタルマリンチェン著『釈論・心髄荘厳』と合わせて全部を和訳した。その研究と発表を継続し、平成30年度末に全部を公刊する。
　チベット仏教圏で盛んな「菩提道次第」に関しては、ツォンカパの主著『菩提道次第大論』を全訳し、研究を継続している。その中盤の3分の1を公刊した。終盤の3分の1を2016年度中に公刊する。また「倶舎学」（同じく５大学科の一つ）の最重要の教科書、チム・ジャムペルヤンの註釈前半の校訂版を出版できた。

研究成果の概要（英文）：In this project, I have studied the Phar-phyin (prajyaa-paaramitaa) , one of the five major exoteric subjects of Tibetan Buddhism, and completed the Japanese translation of its major explanatory treatise, rNam-bshad-snying-po-rgyan, by rGyal-tshab Dar-ma-rin-chen, referring to the larger Prajnyaa-paaramitaa-suutra, Abhisamayaalm.kaara by Maitreya and Vivrtti by Haribadra, consulting other major commentaries, such as Legs-bshad gSer-phreng by Tsong-kha-pa and Spyi-don rol-mtsho by Se-ra Chos kyi rgyal mtshan.
　And also I completed the study and published the Japanese translation of the middle part of Byang-chub-Lam-rim-Chen-mo by Tsong-kha-pa, based on my critical edition of this classic, consulting major commentaries of Lam-rim-chen-mo. And finally, I have compiled a critical edition of the first half of Mchims mdzod commentary by Mchims 'Jam-dpal-dbyangs, on Abhidharma-kosha (mdzod) of Vasubandhu, investigating its sources.

研究分野：仏教学

キーワード：現観荘厳論　ハリバドラ　タルマリンチェン　釈論心髄荘厳　ツォンカパ　菩提道次第大論　アビダルマ　チム倶舎論釈

１．研究開始当初の背景

（１）インド大乗仏教の最も重要な『般若波羅蜜経』の膨大な経典群に科文を与え、大乗の理論と実践を広汎、詳細に解明した『現観荘厳論』とその註釈類に基づく「般若学」は、6, 7 世紀のインド以降、チベットでも隆盛しつづけ、顕教学問寺の 5 大学科の一つになった。これに関して個々の典籍の校訂版、和訳、英訳、あるいは個々の主題に関する研究が行われてきた。また、チベットの伝統的な研究がインド撰述文献を踏まえて豊富な内容を有していることは知られていたが、その特有の表現方法、学僧たちの暗記を前提とした簡略な叙述などが相俟って、その全体に渉る研究発表は乏しかった。そのため、この分野での多くの典籍が断片的な扱いのみを受けていた。

研究代表者は若くして出家し、亡命先のインド、ネパールで学問寺での伝統を暗記、問答といった伝統的な修学を通じて継承した。その上で、訪日し、近現代の研究成果を学んで、文献学的な裏付けをも継続し、伝統的な学問を日本や欧米の研究者に、そして、近現代の成果をインドや中国在住のチベット人僧侶、学者に伝えることに努めてきた。マイトレーヤ五部論に関する研究書（チベット文）も著してきたが、それを文献学的に裏付けた研究を充分に行えなかった。しかし、和訳研究の有力な研究協力者（藤仲孝司）を得て、過去 15 年間で 10 冊の和訳研究を公刊した。この研究協力者と「般若学」最大の教科書タルマリンチェン（ツォンカパの後継者）著『釈論・心髄荘厳』の和訳研究に着手した。

（２）「菩提道次第」は 11 世紀にインドから伝承されて以来、チベット仏教圏で全宗派において学ばれた。ツォンカパ（チベット仏教最大の学僧で宗教改革者）の顕教での主著『菩提道次第論』については、部分的な和訳、英訳、あるいは詳細な研究を欠いた全体の漢訳、英訳のみが公刊されてきた。研究代表者はこの教えを継承し、すでに『同小論』の全体の校訂版と和訳、『同大論』全体の校訂版、『同大論』序盤 3 分の 1 の和訳研究、中盤 3 分の 1 の和訳のみを発表していた。終盤の 3 分の 1 は 1950 年代に故長尾雅人博士により和訳研究が発表されていたが、中盤 3 分の 1 の和訳研究が公刊されていなかった。

（３）初期仏教から部派仏教での教えをまとめた『倶舎論』に基づく「倶舎学」もチベットで顕教 5 大学科の一つである。『倶舎論』についてはインド撰述の註釈文献が全章にわたって和訳研究されてきたが、それら文献を横断的に閲覧したチベットの「倶舎学」については、その最大の教科書、チム・ジャンペーヤン著の『倶舎論の註釈』（通称「チム・ズー」）も第 6 章の和訳研究以外、ほとんど扱われていなかった。現在ではその影響下にある比較的簡略な註釈文献が行われている。これは上記のようなチベット撰述文献の専門的な扱いに関する困難があるためである。

２．研究の目的

（１）タルマリンチェン著『釈論・心髄荘厳』全体の和訳研究を行う。これは、「般若学」に関して歴史的にも最も重要な教科書である。同書に扱われたインド撰述の註釈文献類の構成、内容と、同書での取り扱いを調査し、『釈論・心髄荘厳』の前後関係を明らかにする。

（２）いまだ和訳研究の無いツォンカパの主著『菩提道次第大論』中盤 3 分の 1 について、詳細な和訳研究を行って、この世界的な名著全体の和訳を完成させる。それにより彼の宗教改革、彼により俯瞰されたインド仏教の思想と実践を解明する。

（３）「倶舎学」の最大の教科書チム・ジャンペーヤン著の『倶舎論の註釈』全体の校訂版を作成し、そこでの引用に関して典拠などを調査し、それらの扱いを研究する。また『同註釈』の科文、索引を作成する。今後これらに基づいて『同註釈』全体の和訳研究を行う。

３．研究の方法

（１）『現観荘厳論』や『註釈・明義』と、対応する『二万五千頌般若経』についてはハリバドラの科文のついた『同経』（テンギュル部に収蔵）を参照して、構造を明らかにする。さらに、タルマリンチェン著『釈論・心髄荘厳』はしばしば簡略な表現で要点を叙述している。そこで、先行する恩師ツォンカパの『善釈・金鬘』と、『釈論・心髄荘厳』によるゲルク派の「般若学」の詳細な注釈書として最重要なセラ・ジェツンパの注釈書『遊戯海』を参照して、『釈論・心髄荘厳』の論述の文脈を浮き彫りにする。そのうち、『善釈・金鬘』は若い時代の著作であり、円熟期の思想は見られないが、インド撰述の註釈類、チベットの諸学者の見解を広く参照しており、インド・チベットでの展開を概観するには有益である。セラ・ジェツンパの註釈は、『善釈・金鬘』と『釈論・心髄荘厳』で明示されていない個所、例えばチベットの学者の個人名、インド、チベットでの議論の系譜についても指示を与えており、両註釈の問題点をも探求しているので、これまた有益である。研究協力者に詳細な下調べをしてもらい、そこから明らかになった内容を、研究代表者も調査、検討し、その成果を註記に盛り込む。

（２）『道次第大論』の中盤 3 分の 1 すなわち発菩提心から六波羅蜜、四摂事、止の章までは、インド大乗仏教の総括提示でもあるが、

それらについては和訳研究がほぼ完成しているので、索引と科文を作成し、ゲラ校正を行う中で註記の整理統合を行い、不足部分を調査し追加する。終盤 3 分の 1「観の章」はツォンカパ独自の中道思想に関する最も重要な提示である。それについては、和訳のみをほぼ完成したので、ツォンカパ以降のゲルク派で形成された註釈類を統合し、最も権威のある註釈文献『四割註の合揉』を丁寧に参照して、詳細な研究を行う。また、個々の引用文献についてもその脈絡を調査し、『道次第大論』のさらに詳細な索引、科文を作成する。

（3）チム・ジャンペーヤン著の『倶舎論の註釈』については、伝統的な版本、その洋装本が出ているが、電子化されたデータは断片的なものしかない。伝統的な版本を底本に入力し、全体の校訂版を作成する。引用された経典や註釈について、チベット訳大蔵経で調査する。さらに従来のチベット仏教圏に知られなかった経典、論書の典拠を調査する。すなわち、パーリの経典、漢訳の経典と部派仏教を代表し、『倶舎論』の母胎となった説一切有部のアビダルマ文献群『発智論』やその注釈書『大毘婆沙論』など（漢訳のみに残っている）である。これらに関しては、日本では梵語原典や註釈に関して業績が蓄積されているので、山口益、舟橋一哉、桜部建、福原亮厳、小谷信千代、本庄良文など先学の業績を参照する。

４．研究成果

（1）『釈論・心髄荘厳』に関しては、註釈対象の『現観荘厳論』本頌と、『註釈・明義』の文章を対照させつつ、全体（350 葉ほど）を和訳した。論文での発表に関しては、従来、和訳研究が発表されている第１章「一切相智性」は冒頭の概論部分以降の、大乗の具体的実践のうち、「教誡」「順決択分」(45 葉ほど)の和訳研究が公表できた。詳細な研究は継続中であり、３年後には、語彙集、科文を付けて全体を出版する。

具体的には、ハリバドラが科文を付けた経典（テンギュル部に収蔵）において、その対応を示している『二万五千頌般若経』の典拠は、梵、漢、蔵の版本により確認すべきである。そのうち、『釈論・心髄荘厳』が直接的に参照している蔵（チベット語訳）に関してはデルゲ版のみを、『釈論・心髄荘厳』全体にわたって確認した。『同経』の梵語原典と漢訳に関しては第１章のみを確認できた。

『釈論・心髄荘厳』に引用された他の経典や論書に関しては、その題名が明示されているものについて、そのチベット語訳の出典を調査できた。しかし、それらの出典が註釈文献や先行する議論のどこに由来し、どのような脈絡の中で為されているかなどの検討については、第１章のすでに発表した部分に限られている。当該部分のツォンカパの『善釈金鬘』と、セラ・ジェツンパの『註釈・遊戯海』、さらに近現代の研究成果を詳細に検討することにより、ロデン・シェーラプやニャボンやロントンなどの先行する学者の見解、叙述の脈絡など関連情報を豊富に指摘することができた。また、『釈論・心髄荘厳』に扱われた仏教以外の見解を分類したいわゆる「六十二見」についても、他のタルマリンチェンの議論と合わせて整理した。

（2）チム・ジャムペルヤン著『倶舎論の註釈』（通称「チム・ズー」）は、全体で 430 葉の大著であり、全８章からなるが、そのうち前半４章（界品、根品、世間品、業品）に関して、校訂版を作成した。これらは、「法(ダルマ)の理論」として基本的な範疇論を提示し、行為、世界の在り方と実践の在り方を議論する。ここには、初期仏典のほか、インド撰述の『倶舎論』註釈文献が多数引用されており、それらに関して引用の典拠を調べた。さらに、漢訳のみに残っている説一切有部のアビダルマ文献で『倶舎論』に先行する『毘婆沙論』についても幾らか論及した。

（3）ツォンカパの主著『菩提道次第大論』の中盤の 3 分の１に関しては、すでに和訳を終えていたが、少し検討すべき個所が残っていたので、それらを調査、研究し、さらに科文、索引を作成して、詳細な訳註つきで出版した。これにより、この名著は、故長尾雅人博士の和訳研究と本研究者の以前の和訳研究を合わせて、全部日本語で読むことが可能になった。

（4）仏教思想の要点をまとめた著作と、チベットの歴史をまとめた著作を各々1 冊公刊した。これらは、研究代表者自身が修学してきたものと、多く日本の研究者たちの業績をまとめたものであり、その幾つかは複数の旧著や論文に散説したものに加筆ないし新たに執筆したものである。これは、中国、北京の蔵学中心と、成都の西南民族大学での学術交流することを目的に作成したものであり、現実に集中講義で使用した。チベット仏教に関しては、中国政府の弾圧政策が終わった後も、伝統の断絶は補われておらず、学問寺の活動も盛んではない。内容としては、従来の伝統的な学問上の知見に加えて、パーリ、サンスクリット、漢訳などを参照した日本、欧米の幅広い論点も検討した。また、チベットの歴史については、日本や欧米での考古学研究、語学研究、漢語文献の参照など、チベット人にはあまり知られていなかった事柄について論述した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計４件）

①白館戒雲(ツルティム・ケサン)、藤仲孝司、タルマリンチェン著『現観荘厳論の釈・心髄荘厳』第１章より「順決択分」の和訳研究（２）、成田山仏教研究所紀要、39、査読無、2016、93-151

②白館戒雲(ツルティム・ケサン)、チベット仏教における六十二見、立正大学法華経文化研究所編『三友健容博士古稀記念論文集』、査読無、2016、pp.876-886

③白館戒雲(ツルティム・ケサン)、藤仲孝司、タルマリンチェン著『現観荘厳論の釈・心髄荘厳』第１章より「順決択分」の和訳研究、成田山仏教研究所紀要、38、査読無、2015、113-133

④白館戒雲(ツルティム・ケサン)、藤仲孝司、タルマリンチェン著『現観荘厳論の註釈・心髄荘厳』第１章より「教誡」の和訳研究、成田山仏教研究所紀要、37，査読無、2014、135-358

〔図書〕（計４件）

①白館戒雲(ツルティム・ケサン)、西蔵仏教文化協会、チベット訳カンギュル・テンギュルの偉大な母であるチム・ジャンピーヤンの著書『チムゼー』の典拠を示す日月（前編）（チベット文）、2016、414

②白館戒雲(ツルティム・ケサン)、西蔵仏教文化協会、チベット大蔵経における重要な仏教思想の選集、2015、454

③白館戒雲(ツルティム・ケサン)、藤仲孝司、Unio Corporation、ツォンカパ　菩提道次第大論の研究Ⅱ、2014、524

④白館戒雲(ツルティム・ケサン)、西蔵仏教文化協会、チベット古代史研究撰集（チベット文）、2014、1-252

６．研究組織

(1)研究代表者

白館　戒雲（SHIRATATE, Kaiun）

大谷大学・文学部・名誉教授

研究者番号：１０１７９０６２

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし

(4)研究協力者

藤仲　孝司（FUJINAKA, Takashi）